

# Richa ~ピチヤリ~

七飯町歴史館だより

第163号

## ななえ古写真物語 VOL. 163

### 十年一昔

街の移ろいを読む

昭和40年代後半か

本町地区



人の記憶はとかく曖昧で、都合よく脚色されることもあるが、それは仕方のないことだろう。その点では、写真は当時の様相を正確に記録する媒体であり、歴史館でも明治・大正・昭和・平成と町の様子を記録した写真が、紙媒体とデジタルデータともに保管されている。これらを蓄積することで、町の変遷をたどる手がかりとして収集にも力を注いでいる。

ところで、カメラが銀塩やネガフィルムの時代から、デジタルが主流になった現在では、既存のデータが合成か否かを見極める必要性や、例えば本紙で紹介した画像が無断でコピーされて、画像だけがネット上でひとり歩きするといったように、著作権や所有権などの問題をどのように取扱うかなど、課題は山積だが、時代的には今後も写真はデータでの蓄積が進むのだろう。近年はその技術のスピードの速さに、目を見張るばかりである。

よく十年一昔といわれるが、カメラの性能もさることながら、町の移り変わりも早くなっているようで、改めて言葉の持つ重みを感じる。紹介する写真は、昭和40年代後半に撮影されたもので、七飯町本町から函館方面へ伸びる国道5号沿線を撮影したものである。

撮影位置の高さから、かつての七飯町役場(現 本町郵便局)に設置された防災用の鐘楼から撮影されたと推測している。縦走しているのが国道5号で、現在と位置は変わらないが、よく見ると歩道が片側にしかなく、場所によっては国道の際で、建物との境界となっている所もある。

また、昭和らしいハシゴ形をした横断歩道もみられるが数は少なく、車が走行しているのに渡っている人物、さらには横断歩道がないのに道路を横断している人までみられる。今より車通りが少なかったからなのか、鷹揚な時代である。

そんな町の移り変わりで、何よりも驚いたのは木々の多さである。町の中心部でもあるので、商店や人家が軒を並べているのだが、現在と比較して、圧倒的に、街中に木が多く残されている。その内訳として果樹園、雑木林、庭木など想定されるが、遠く函館方面まで辿って見ても、緑の多さが際立つと感じた。約50年の間に進んだ都市化への変遷がこの1枚から読み取れる。人の記憶は曖昧とはいえ、脚色されることなく、緑の風景が残る町であってほしいと願う。

## 8月の予定

### 特別展「縄文のカタチ」を開催中です。

博物館や郷土資料館の常設展示で、土器や土製品を見る機会があっても、それは所蔵しているごく僅かなもので、実際にはそれらよりはるかに多くのものが、別の場所でコンテナや収蔵庫などで保管されています。今回の展示では、道南の12の町にもご協力頂き、普段はあまり展示されることのない、形や文様にデザイン性を感じるものや、炭化物がこびりついた、日常使いの土器などを114点展示しています。難しい専門用語の解説を避け、感覚的で簡潔な文章で、見る人それぞれの理解をお助けできればと心掛けました。主な見どころとして、オリエンタルな雰囲気をもつ木古内町の大型土器、江差町の方形の土器、口が二つある厚沢部町の土器、七飯町を代表する聖山式土器など、それぞれに個性あふれる土器が並んでいます。どうぞ細部までじっくりと観察してみてください。小さな発見や驚きが、今までとは違う土器の印象に繋がるかもしれません。皆様のお越しをお待ちしております。



1	日	特別展「縄文のカタチ」開催中
2	月	
3	火	
4	水	夜の博物館前期講座第3夜
5	木	
6	金	
7	土	
8	日	山の日
9	月	振替休日
10	火	
11	水	
12	木	
13	金	
14	土	
15	日	
16	月	
17	火	
18	水	
19	木	
20	金	ピチャリ164号発行
21	土	
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	
26	木	
27	金	
28	土	ジュニア探検クラブ
29	日	
30	月	↓
31	火	特別展「縄文のカタチ」最終日

8月の休館日はありません

#### カケラの展示

破片。それは全体を想起させる大事な役割。カケラからカタチへ光を浴びて。



### 植物採集と標本作り

6月のジュニア探検クラブは、「植物採集と標本作り」を行いました。子どもたちには、他の人と同じ植物にならないように一人二種以上採集をすることを目標に伝えました。手には野冊（採集した植物をはさむもの）と移植ゴテを持ち、いざフィールドへ。根を掘り起して採集したら、植物名を同定するために図鑑とにらめっこ。乾燥までは2週間ほど必要なので、以前採集したものを台紙に貼る作業を体験しました。地道な作業を根気強く取り組む姿は頼もしい限りです。



#### 編集後記 ~tawagoto~

この間、仕事で駒ヶ岳に登ってきたのだが、意外と登山者が多いのに驚いた。コロナ禍でフィールドに出る人が増えたからか、単に好天だからかはわからないが健康的である。植物をみながら、登っているとトレッキング用のポールから外れたプラスチック片やらマスクなど、やたらとゴミが目についた。ヒトが立ち入ることの悪影響である。幾つかをポケットに忍ばせ、自分のゴミは確実にバッグにしまい、気を引き締めて下山した。（やまだひさし）

~ピチャリ~  
Pichari 第163号

令和3年7月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp